

定期大会の成功に
むけて・シリーズ3

ストライキで総反撃を



1988.9.22
No.2896

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

十月二日～三日の両日、勤労千葉は第十五回定期大会を開催する。

今大会は、「分割・民営化」から一年半が過ぎ、三年目に向かって首切り撤回、原職奪還への闘いが極めて重要な時をむかえた現在、われわれ勤労千葉がいかに闘い、敵にたちむかって行くのかを決定する大会だ。全国の闘う国鉄労働者の期待は、今大会に集中されるだろう。

わが勤労千葉は、この間四波・五次にわたるストライキをかちとった。JR当局の殺人的強制労働、首切り、大合理化、差別・選別、強権的労務支配に反撃を開始したのだ。それと合わせたこの間の国鉄労働者の闘いは、勤労西日本、国労のスト決起、中止にはなつたとはいえ国労門司地本の清算事業団労働者のストにむけた怒りの決起、これらによって、敵に限りない打撃を与え、当局を追い詰めている。

今こそ闘いの時だ。第十五回定期大会の成功をかちとり、勝利にむけた闘う方針を全組合員の力を結集し、確立しよう！

安全などそつちのけ 運転保安などを無視する当局

いま全国いたる所で連日のように事故がおきている。七月下旬、八月の帰省ラッシュ時、東海道新幹線、東北新幹線、在来線、いたるところで信号機故障、火災、架線切れなどが起きている。

運転保安無視の事故も相次いでいる。千葉においても八月十一、十二日の大雨、地震時におけるメチャクチャな列車運用、明けの乗務員を呼び出し、その日に乗務を強要するなど。四月二日には、東海道線で電車が場内「青」に従って進入したら停車中の貨物列車に衝突、また、大船線では架線のトランスが次々と火を吹き上げているにも関わらず、指令は承知の上で電車を走らせるという、信じられない人命無視の異常事態。

どれひとつとっても、この間の全く安全を無視した合理化の結果であり、同時に列車の運行確保ばかりに気をとられ、最も大切にしなければならぬはずの安全を二の次にする当局の政策の結果である。起こるべくして、起きている重大事故なのだ。

にも関わらず、当局は勤労革マル・鉄道労連と一緒に事故隠しにやっきとなり、それをごまかすために「黒字だ」「生まれ変わった鉄道だ」と大キャンペーンを繰り広げ、またこうした事態にもかかわらずATS-1P型なるものを導入して、さらに超過密ダイヤを強制しようというのだ。

組合口つぶしをなによりも
ままして目取優先

また、当局の差別・選別、組合つぶしの強権的労務支配攻撃は、もはやガマンできないところまで悪質化している。

京葉線の「暫定開業のための訓練開始」に伴う差別配転は、「京葉線はモデル線区」「京葉線から勤労千葉は排除する」（車務課長・河野）と公言し、鉄道労連を中心に配転を強行した。さらに、津田沼支部を焦点に各職場では、不良職制どもが仕事をそつちのけで「アゴヒモ・カーテンチェック」やスパイさながらの「密告と監視」にあけくれている。「アゴヒモ・カーテン」「一分間の遅れ」を理由に三カ月も四カ月も「乗務停止」を強要する。事故の責任は全て労働者に転嫁し、「乗務停止」を乱発、故障であろうと何であろうと列車が止まれば悪者は全て乗務員というのだ。

このままでは殺される。これが国鉄労働者の共通した気持ちだ。闘いをもってこそ我が身は守れるのである。

ストライキを軸に反撃を

しかし、当局はもはや手を出し尽くしてしまっている。労働者を支配するためには脅していく以外にはない。しかも、ここで攻撃を中止してしまつたらすべてが総瓦解してしまう危機にあるのだ。いまこそ反撃を再開する。こうした方針を確立するために、各支部で討論をまきおこそう！

定期大会で積極的な討論をかちとり、闘う方針を確立しよう！